

ご挨拶

<県民の皆様へ>

臨床検査技師は国家資格を持った職能集団であり、病院・健診施設等において検査業務に従事しております。我々臨床検査技師は令和元年12月(2019年)に発生した新型コロナウイルス感染症の蔓延時には、検体採取・PCR検査・大規模接種会場でのワクチン接種等々で、感染拡大を防ぐための一翼を担ってまいりました。また、令和6年1月1日に発生した能登半島地震においても、足の血栓の有無を超音波検査で確認するDVT検診、簡易キットによる新型コロナウイルスおよびインフルエンザウイルス検査など、様々な医療支援を行ってきたところです。

これからも県民の皆様の健康を守るために、検査のプロとしての自覚を持ち、正確かつ迅速な検査結果の提供に努めてまいります。多くの県民の皆様に「臨床検査技師」の名を認知していただければ幸いです。今後とも、皆様方のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

<会員の皆様へ>

会員の皆様に一言ご挨拶申し上げます。先に行われた令和6年度総会において会員の皆様の承認を得て会長に就任いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。また、会員の皆様および賛助会員の皆様には、日頃より技師会活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

当栃木県臨床検査技師会は昭和26年(1951年)に設立され、70年を超える月日を刻んでまいりました。その間に検査項目数は大きく増え、分析方法・分析機器は飛躍的に進歩を遂げました。しかし、検査技師の処遇・業務の拡大に関してはさほど変わってはおりません。検体採取業務、医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアによる8分野10項目の業務拡大がなされたのもつい最近のことです。国家資格である臨床検査技師の業務に関する改革には法律の改正が伴うため遅々として進まないのが現状です。臨床検査技師から国会議員を選出することを目的として設立された「連盟」の活動にも目を向けていただき、ご協力いただければ幸いです。

また、各施設では世代交代の波が押し寄せ、非常に若い世代が増えてきております。時代とともに働く人のニーズも変化し、今の時代にあった多様性のある働き方を考えていかななくてはならないとも考えております。臨床検査技師の活動の幅を広げ、医療に中で不可欠な存在と認知され続けるためにも技師会としての活動は重要です。皆様、一人一人が知識を深めスキル磨き、医療に貢献できる臨床検査技師を目指していただければ幸いです。

今後とも栃木県臨床検査技師会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

一般社団法人 栃木県臨床検査技師会
会長 日高 裕介